

■ I L C 誘致に伴う本市への波及効果(想定)

分野	本市への波及効果	具体的な内容
港湾・物流	大船渡港の活用 関連道路の整備・改良	クライオモジュールをはじめとした I L C 関連の各種機器類などの陸揚げによる港湾施設の利用 大船渡港から陸揚げされた各種機器などを内陸部の建設候補地まで輸送するための道路の整備・改良に伴う機能向上
産業振興	I L C 関連技術を生かした産業の振興	I L C 関連技術を応用した新産業の創出や I L C 関連施設から新たな技術が生まれる可能性がある。 【加速器の技術が応用されている例】 ・がんなどの検査に用いられる P E T - C T ・放射光を利用した分子構造解析 【他の加速器関連施設から生まれた技術の例】 ・インターネット上でウェブページを利用する仕組みとなっている WWW (ワールド・ワイド・ウェブ) ・コンピューティングサービスをインターネットを経由して配信するクラウドコンピューティング
観光・商業	研究者やその家族の来訪・定住による消費拡大	・小売業(生活必需品、土産、グッズ、食料品など) ・飲食業(日常生活での外食、観光での利用など) ・観光業(体験観光、観光バスの利用など) ・宿泊業 ・各種サービスの利用 など
雇用	研究施設などでの雇用の創出	・通勤可能な距離であることから、I L C 研究施設や関連施設での雇用 ・研究者の家族の居住による労働人口の増加
教育・文化	教育・文化分野の向上	・外国語教育の充実 ・英語力の向上 ・最先端研究を間近で体験 ・多文化交流 ・地域の伝統文化の発信 など

■ 大船渡港から建設候補地までの想定輸送ルート



大船渡港からの物流ルートの状況調査のため、平成29年9月に、国道107号・343号・397号・397号について、I L C の設備機材運搬などで利用の可能性がある45フィート海上コンテナ運搬車両の公道走行実験を実施しました。実験結果を踏まえながら、I L C 誘致実現を見据え、重要港湾である大船渡港が最大限に活用されるよう、それぞれ路線の早期改良整備について、県などに対し、引き続き要望してまいります。

(3) 広報大船渡 30.1.9(No.1118)

▷ 問い合わせ = 市役所 ☎0192@3111



I L C でどう変わる？
“I L C と共生するまちづくり”

© Rey. Hori

国際リニアコライダー (I L C) 計画は、直線状の加速器を利用し、宇宙誕生直後の状況を再現させることにより、宇宙創成の謎、時間と空間の謎、質量の謎など、さまざまな科学の謎に迫る実験装置を「世界に一つだけ」建設する計画で、岩手県・宮城県にまたがる北上山地が、国内における建設候補地とされています。I L C の施設周辺には、世界的で高レベルな研究施設などの立地が予想され、施設などへの就労や、関連する技術や知見を活用した産業振興など、将来を担う若者や子どもたちをはじめ、多くの人たちが意欲と希望を抱き、夢を切り拓くことができるような環境に変わっていくと期待されます。

本号では、I L C 誘致に係る直近の状況と、誘致実現に伴い想定される波及効果などについて紹介します。
▷ 問い合わせ先 = I L C 推進室 (☎内線229)

I L C 誘致に係る直近の状況

I L C 計画では、地下に直線のトンネルを掘り、その内部に施設が建設されます。これまで I L C は、全長31kmとして計画されていましたが、平成24年のヒッグス粒子の発見により、当初の整備延長を20kmからスタートする「ステージング」という案が提唱されました。全長31kmの計画では、約8,300億円の建設コストが課題でしたが、この「ステージング」により、当初の建設コストを約5,000億円で削減することも可能になります。「ステージング」は、平成29年11月に、加速器研究の国際的な組織である国際将来加速器委員会において承認され、現在、国でも検証を始めています。

I L C 推進室を設置

市では、こうした I L C の誘致における情勢の変化を受けて、関連する取り組みを一層推進するため、平成29年12月1日、I L C に係る事務事業を統括する「I L C 推進室」を設置しました。針となる「I L C と共生するまちづくりビジョン」「大船渡港の活用及び関連施設整備プラン」を策定する予定です。



I L C 推進室の看板を設置

I L C 誘致に伴う波及効果

北上山地への I L C の誘致が実現すると、左表のとおり、施設・設備などの建築資材や研究機器の搬入に伴う大船渡港の活用、研究者やその家族の来訪・移住などによる交流・居住人口の増加と関連する生活基盤の整備促進、研究施設・関連施設での雇用の創出などが期待されます。さらに中長期的には、I L C 関連技術を生かした産業の振興など、多大な効果が生じると考えられます。

また、世界各地から研究者が集うことにより、多文化が共生する国際都市圏が形成されることから、間近で最先端の研究に接し、かつ、多様な文化に触れることができるなど、教育・文化分野における効果も期待されます。

I L C 誘致に伴う大船渡港の活用とアクセス道の整備

I L C 関連の建築資材や各種機器類などはヨーロッパ、アメリカ、アジアなどの諸外国や国内各地から海上輸送されるとされています。また、大船渡港から陸揚げされた荷物について、国道107号・343号・397号などが、大船渡港から建設候補地までの陸送ルートを担当する可能性が高いと予想され、安全・確実に輸送するため、道路改良整備による各路線の機能向上が必要と考えられます。

大船渡港は、I L C 建設候補地である北上山地に最も近い港湾であり、荷揚げの中心地として物流の拡大が期待されます。